

祈りの友 第182号

2022年3月



主に聞く

高水林 (コウ スリム)

「こういうわけですから、兄弟たち。
私たちは、イエスの血によって、大胆に
まことの聖所にはいることができるのです。」
(ヘブル人への手紙 10章 19節)

ある日のことです。老人施設にいるY姉妹のところに行きたいと思い、出かけようとしたら、体がとても嫌がります。どうしたらいいですかと、その場で神さまに聞き、黙っていました。すると携帯電話が示され、電話をかけました。でも電話に出ませんでした。私は行くのをやめてリラックスしていました。その日の午後、その姉妹から電話がかかってきました。知人の家庭集會に出かけていましたという…。車で1時間もかかるそのところにたとえ私が行ったとしても彼女に会えないところでした。神さまに感謝しました。

最近のことです。関東や太平洋沿岸部に大雪の恐れがあるというニュースで騒いでいた頃です。関東の人はほとんどノーマルタイヤなので無理もないことです。その時にいわき市に用事で出かけていて、帰りの木曜日はいつ雪に変わるか分からないというその当日です。知人とのランチの約束もあります。それにラインでのやり取りだけでは少し通じないの

を感じ、なるべく対面で話し合いたいと思っていたところでした。でも肝心な天気がどうなるかが分かりません。知人には木曜日の朝、連絡しますと言いました。

当日の木曜日の朝です。6時ごろ目が覚めて布団の中で神さま、どうしますかと聞いて黙っていました。すると雪がパラパラ降ってくるのが見え、またそれらが地面に落ちないように神さまが抑えておられる様子が示されました。それで神さまにお願いしました。後でみんなと一緒に聞く時も同じことをおっしゃってくださいと。それからデボーションの時間になり、聖書を読んで分かち合い、その後、神さまに聞く祈りをしました。神さま、このまま帰るべきですか、ランチの交わりをすべきですか、と。少し黙っていてそれから仲間と分かち合うことにしました。

黙っていたら、分厚い白っぽい左手の手のひらに雪粒のようなものが何粒かあり、神さまは右手の人差し指でそれを数えておられるのが示されました。それを見て大丈夫だと思い、分かち合い、感謝し、11時のランチにして交わりをしました。

知人とも少し通じていなかったところを話し合うことができました。すべてが感謝でした。CEF本部に着くまで小雨でした。神さまからオッケーサインがあったから可能なことでした。神さまに黙って聞くことはスリルあることです。次の朝、起きたら大雪でした。

その後の火曜日、疲れを覚えていて、川口まで伝道に行かないで近くのみずべ公園にしようと思いました。でも、布団の中で朝、神さまに聞きました。黙っていたら、川口に来ている仲間の一人の姿が、まるで大きな銅像が下の方からだんだん上の方へ上がってくるように、上がってくるのが示されました。存在感があ

りました。神さま、分かりやすいですよと言ひ、感謝し、その通りに川口に行きました。

3人で聖書を読んで分かち合い、また川口での伝道のために神さまに聞く時間を取り、その通りを祈り、伝道し始めました。初回はゲームしていた男の子たちにマジックパズルを見せて、「この話、聞きますか」と言ったら、「いいえ、大丈夫です」と断られました。また歩き回り、街角のところにいる子どもたちに伝道しました。2回目、3回目、4回目。心やわらかい子もいたし、「宗教ですか」と言って頑固な子もいました。小さい子たちはちゃんと分からないとしても聞こうとし信じようと思いました。小6になる子たちは素直に信じたのは一人だけです。一人は受け入れないで、「みんなどう思う?」と言ひながらなかなかイエスさまの十字架の救いを自分のものにしませんでした。それに仲間たちもいろいろゲームしながら反論し始めました。これではなかなか終わらないなと思い、受け入れなかった子にもう一度確認をし、ほかの子たちにはインターネットでイエスさまのことをちゃんと検索して確認するようにとだけ言っておきました。後のことは神さまにゆだねてその場を去りました。

30年近く神さまに聞く祈りでここまで導かれてきました。ソウルのオンヌリ教会の青年部の週報にあった「効果的にとりなす祈り方」という内容を読んでからのことです。何かあるたび主に聞き始めました。聖書を読んで静まる、デボーションの時と似ていて、いろんなことがあり、どうしたらいいですかと神さまに聞き、黙って待ちます。その時に示されるのはいろいろです。みことばだったりさんびや写真のような場面だったり、人の顔、いろんな動きだったりします。

2008年8月に日本CEFに派遣されて

くる時もいつ行くべきですかと祈り、示されたのでそのままソウル主事とスケジュールを打ち合わせ、韓国を発つ日を決めました。

旧約時代には神さまに尋ねることがあったら、神の人をとおして伺いを立てていただきました。リベカ、サムエル、ダビデ、サウル…。

「子どもたちが彼女の腹の中でぶつかり合うようになったので、彼女は『こんなことでは、いったいどうなるのでしょうか、私は』と言ったそして、主のみこころを求めに出て行った。」

(創世記 25 章 22 節)

「ダビデは、アヒメレクの子、祭司エブヤタルに言った。『エポデを持って来なさい。』エブヤタルはエポデをダビデのところに持ってきた。ダビデは主に伺った。『あの略奪隊を追うべきでしょうか。追いつけるでしょうか。』すると、お答えになった。『追え。必ず追いつくことができる。必ず救い出すことができる。』」

(サムエル記第一 30 章 7—8 節)

今日、罪からの救い主イエス キリストを信じ救われたあなたや私は、イエスさまの流された血潮のゆえに、大胆に主に近づくことができます。直接主に尋ねることができます。この特権にともにあずかろうではありませんか。

われは王と共に歩む ハレルヤ

われは王と共に歩む 御名をほめよ
さまよい日は去りぬ

わが顔、天をあおげば

われは王と共に歩み 王と語る

(ジェームス ロー)

「すべて祈りによって」、P39 より

日本CEF (日本児童福音伝道協会)

〒311-3434 茨城県小美玉市栗又四ヶ 2421-6

TEL 0299(28)2031 URL: <http://www.cef.or.jp>

献金振替 00160-1-59313

(宗) 日本児童福音伝道協会